



11月12日 まちづくりトーク



11月12日、「上富良野町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」をテーマに「まちづくりトーク」を保健福祉総合センターかみんで開催しました。

同総合戦略は人口減少や超高齢化への対応策として施行された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき定められた国の長期ビジョンと総合戦略を受けその上富良野町版を策定するもの。

推計では平成52年には8千86人にまで減少する町の人口を1万人程度に抑えることを目標に設定。現在の合計特殊出生率(※)1.66人を2.07人まで引き上げるため、就労を含めた子育て環境の向上とともに人口流出の抑制、人口減少と超高齢化社会など時代を見据えたまちを構築することを基本的な方向性と

して、具体の施策について定めます。

まちづくりトークは午後1時30分と同6時30分からの2回に分けて行い、延べ47人が参加。その中で交わされた議論の一部をご紹介します。

参加者からの質問

質問 25年後の人口を1万人程度にキープすることが目標とのことですが、達成は可能ですか？

町長 人口を保つためには子どもを産み育てる環境を整えることが必要。目標の出生率に近づける取り組みを進め、転出など社会的な減少を抑える施策も必要と考えています

質問 子どもの医療費を無料にすれば産み、育てやすくなるのでは？

副町長 医療費の支援も重要な施策と認識していますが、健診の充実や保育所の延長保育、小学校での放課後クラブの実施など、妊娠期から就学後まで、子育て期間全体を通して安心感を得られるよう支援しています

質問 仕事を求めて町外へ転出する方もいるので、就労先の充実と産業の振興に力を入れてほしい。また、農家が減っていることも人口減少の理由だと思つので、町としての支援が必要では？



農家自ら野菜を販売する軽トラ市

町長 農業の振興は町の生命線だが、北海道のシミュレーションでは7年後には農家が大幅に減少すると推計があり、高齢者も働ける多様性のある農業施策に柔軟に取り組みすほか「農業と観光」「農業と食へ物」などさまざまな事業と結び付けた雇用の創出も考えていきます

質問 最近、町を訪れる外国人観光客が増えてきている。英語や中国語でも対応できるように語学を学んだ人を置くなどの対策が必要では？

町長 外国人への対応は必要だと理解しているが、人材が集まらないのが実態です。観光協会では観光パノフの外国語表記などにも力を入れており、民間観光施設で集客が多くなれば必然的に人材も求められる可能性ががあります。また、町では人材育成アカデミーなどにより育成を図っていききたいと考えています

質問 ほかのまちのように教育にジオパークの要素を取り入れ、人づくりに力を入れてみては？

総務課長 ジオパークについては教育にも活用する予定で、小学校での火山学習や郷土をさぐる会による地域の歴史の掘り起こしなど既存の取り組みのほか、最近ではフットパスやトレイルランなどの新たな動きも出ている。今後も町民の皆さんや美瑛町と協力しながら進めていきたいと思ひます

質問 さまざまな機能を合わせ持つ複合施設があれば、人が集まり町を活性化できるのでは？

町長 将来、町のにぎわいを取り戻すことが行政のテーマと考えている。複合施設の建設は莫大な費用がかかるプロジェクトとなるので、検討を重ね慎重に対応していきます

質問 移住・定住には雇用や子育ての制度が整っていることも必要。また、農業や商業を支えるためには人を集める施策が必要だと思つが？

町長 町の活性化は産業の活性化が根幹となる。未開発の資源や磨けば光る素材もたくさんあるので、積極的に「発掘」していきたい

※合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に生む子どもの平均数